

財務状況の全般的説明

1. 令和元年度の財務状況

高野山学園における令和元年度の財務状況において、本学の課題であった学生・生徒数確保について、高等学校部門で生徒数が増加したものの大学部門で減少したため、学生生徒等納付金収入は前年度と比べ777万円減少している（当初予算より340万円増加）。

18歳以下人口が減少する中で学生・生徒の確保は困難な時代であるが、現在大学では教育学科設置の申請を行っており、高等学校でも新たに吹奏楽コースを設けるなどなど、これまでとは異なる層の学生・生徒の確保の計画が進められている。これに伴い既存学科・コースでも学生・生徒確保戦略をさらに練り直し進めていく必要がある。

学園の各種特定資産については、一部特定資産で定期預金の預け替えを行った。今後も金融機関を巻き込んだ検討が必要である。

(1) 資金収支計算書

① 資金収支計算書の概要

資金収支計算書について

資金収支計算書は、当該年度の諸活動に関するすべての収支の内容、および支払資金の顛末を明示する計算書類である。

② 令和元年度の財務状況

■ 寄付金収入・補助金収入の減少

昨年度は勸学財団解散による基金の寄付10億円、および大学部門の㈱フジキンによるブランディング事業のための寄付3,000万円などにより増額となっていたが、今年度は特別寄付（図書充実）600万円、一般寄付760万円があったにもかかわらず大幅減額となった。補助金収入においては、昨年度に引き続き算定基準に基づく学内制度の整備をしているが、私立大学ブランディング事業特別補助の減額および学生充足率の低下により、前年度より4,746万円の減額となった。

■ 老朽化施設設備の計画的修繕

施設設備の老朽化および頻発する異常気象の被害により、今年度も教育研究経費・管理経費ともに修繕費支出が前年度より598万円増額した。また高等学校では国からの補助を受け寄宿舎の建替え事業が始まったことにより建設仮勘定を計上している。設備の修繕および改修は今後ますます増加していくことが予想されるため、そのための資金計画につ

いても検討が必要である。

(2) 事業活動収支計算書

①事業活動収支計算書の概要

■事業活動収支計算書について

事業活動収支計算書は、当該会計年度における事業活動収入と事業活動支出を対比し、収支の均衡状態と内容を明確にする、企業会計における損益計算書に当たるものである。その意味では、単年度の収支（赤字/黒字）をうかがう上での指標となる計算書である。

②令和元年度の財務状況

■事業活動収支の動向

令和元年度決算では、前年度決算と比して事業活動収入は10億9,154万円の減少、一方事業活動支出は9,436万円の減少となっている。収入の減少については(1)－②にあるとおり寄付金・補助金の減少によるものである。支出の減少については、大学・高校とも専任教職員退職者の補充見送りによる人件費の減少によるものである。各部署により経費投入の見極めを行う体制が進む一方で、校舎・宿舍の老朽化への対応・耐震への対応などの必要性から光熱水費・修繕費の増額および設備の買い替えを行っている。建物や備品の改修計画や資金計画の策定・実施が望まれる。

(3) 活動区分資金収支計算書

■活動区分資金収支計算書について

活動区分資金収支計算書は、企業会計でいえば損益計算書にあたる。資金収支計算書の決算額を三つの活動区分（教育活動／施設整備など活動／その他の活動）に分けて表しており、活動毎の資金の流れを明らかにするものである。

(4) 貸借対照表

①貸借対照表の概要

■貸借対照表について

貸借対照表は、年度末の財政状態を、資産・負債・正味財産（基本金、繰越収支差額）で表す。貸借対照表では、当年度末と前年度末での資産等の変動を対比している。

②令和元年度の財務状況

■資産の減少

令和元年度末では、特定資産が32億6,622万円となり671万円減少している。流動資

産は5億 7,731 万円となり 1 億 2,907 万円減少しており、うち未収入金が 6,644 万円減少しているが、教職員の定年退職者数が減少しそれに伴う各財団・社団からの交付収入が減少したことによるものである。

■負債の減少

令和元年度末では流動負債が 3,556 万円減少している。うち未払金は 3,528 万円減少この減少は、昨年度の教職員の定年退職金の未払計上が減少したことによるものである。また高等学校部門の銀行からの借入返済が今年度終了したことにより、短期借入金への振替が 534 万円減少している。